

拝啓

今年も早や5月末、初夏の時期となりました。お元気でお過ごしのことと思います。私の家の庭先では、スイートピーが終わりに近づき、スイートピーのあと朝顔を巻かなければと考えている頃です。

いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。バジレア・シュリンク先生の『愛のまなざし 神の子のよりどころ』を6ヶ月かけて終わり、今月から、ウィリアム・バークレー先生の『希望と信頼に生きる ウィリアム・バークレーの一日一章』から引用いたします。バークレー先生のごことは、本文にも書きましたが、多くの聖書注解書を書かれたイギリスの有名な聖書学者ですから、内村鑑三先生のような方です。今回も引用しながら、私はバークレー先生から、時間の使い方、手紙の書き方など、キリスト教的生き方に関し、ずいぶんいろいろな点を学んだなあ、と感じています。この本は実に名著だと思いますが、出版社のヨルダン社がつぶれましたから、新刊では入手困難だと思いますが、次のようなキリスト教書を扱っている古本屋で探せば、入手できると思います。

友愛書房（神田） 03-3291-6327

チイロバ（神田） 03-5283-5510

バークレー先生は1907年のお生まれですから、ご存命であれば101歳ですが、本誌読者の米倉安雄さんをお願いして調べて頂きましたら、1971年に、71歳でお亡くなりになられていました。

この本は、訳者（柳生直行氏）のあとがきに依れば、バークレー先生が、1957-1970年にかけて、British Weekly という雑誌に連載されたものをデニス・ダンカン氏が編集されたものだそうです。この半年か、場合によっては1年、バークレー先生から学ぶことにいたしましょう。

この4年くらい、暇を見つけてはこつこつとやってまいりました南原先生の昭和22年度の東京大学法学部における政治学史講義録を清書して私家版として先週やっと発行できました。ノートを筆記された鬼澤さんから、「4年にわたる尊台のご努力の結晶とも言うべきこの本を手にして私も感無量です。」とお手紙を頂き、永年の苦勞が報われる思いがしました。

また6月2日には、第5回新渡戸・南原賞の授賞式・祝賀会を事務局として手伝います。本誌読者の米倉安雄さん御夫妻に手伝って頂きます。無事とり行われるようご加祷ください。

梅雨に向かう折から、御身体御自愛の程祈り申し上げます。

平成20年5月29日

山口周三

エンカウターの読者各位